

●「大豆研究会中間検討会・展示会&園芸振興研修・機械化体系展示会」が開催されました。



ご来場ありがとうございました!!

8月3日、今年も燕三条地場産業振興センター様にて『大豆研究会中間検討会・展示会&園芸振興研修・機械化体系展示会』が開催されました。お客様・関係者含め約300人の方々からご参加頂きました。

今年も新潟県農林水産部経営普及課の岩津専技様より、大豆の生育経過と体系的な排水対策と今後の生育の課題についてご講演頂きました。また、今年は皆様からのご要望であった園芸を取り入れ、農林水産部園芸振興課の園芸振興係長横山副参事様にもご講演頂きました。「新潟県における園芸振興の方向と課題に

ついて」ということで、新潟県の現況と今後の方向性や各種事業等のご説明を含め、大変内容の濃いご講演をして頂きました。

(株)クボタの有原顧問からは、北は北海道、南は九州地方までの全国各地の大豆栽培のお話をして頂きました。引き続いて行われた(株)クボタの植木顧問、実証圃にご協力頂いている生産者様を交えたディスカッションでは、前日に現地から引き抜いてきたばかりの大豆が飾られ、生育状況について検討されました。また、会場にいらっしゃった各農業普及指導センター様からもご参加いただきました。



農林水産部農産園芸課
園芸振興係長 横山副参事様ご講演



農林水産部経営普及課
岩津専技様ご講演



(株)クボタ 有原顧問ご講演



ディスカッションに参加する
生産者様と(株)クボタ植木顧問

午後からの大豆・畑作展示会では、新製品のワールドシリーズ汎用コンバインWRH1000をはじめ、枝豆の機械化一貫体系・畑作機械コーナーは関心が高く、興味深く熱心にご覧になるお客様がとて印象的でした。同時に開催された各ブース、(株)新潟農商やアグリノートでお馴染みのウォーターセル(株)様のブースでは熱心に相談されるお客様が多数いらっしゃいました。

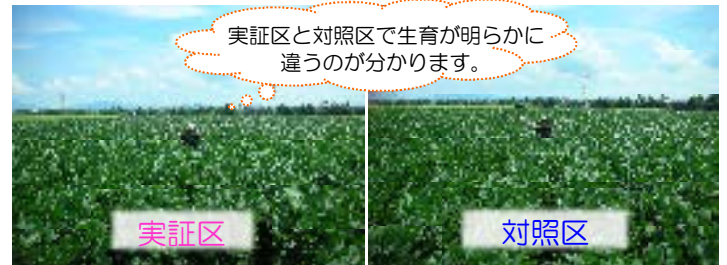


●大豆実証圃の生育状況

【新潟地区】(有)真木農産様 8月9日



【上越地区】(農)福橋様 8月23日



●新発田地区・白根地区にて大豆摘芯作業が行われました。

7月17、18日と新発田地区、白根地区における狭畦摘芯栽培実証圃で農業普及指導センター様主催の摘芯作業が行われました。作業には、(株)丸山製作所様のハイクリブーム+落合刃物工業(株)様の大豆摘芯機とトラクタ型多目的管理機+クボタ大豆摘芯機の2台を使用しました。

摘芯により頂芽を切断された大豆は、頂芽優勢を失い、側芽の成長が促されます。これにより草丈を低くでき、倒伏を軽減することが出来ます。さらには茎の数を増やし、増収が期待されます。

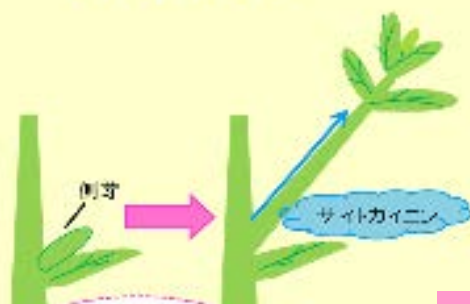
摘芯後の圃場を8月9日に視察しましたが、摘芯区と無摘芯区では分枝の数に明らかな差が見られました。収穫時期が楽しみです…♪



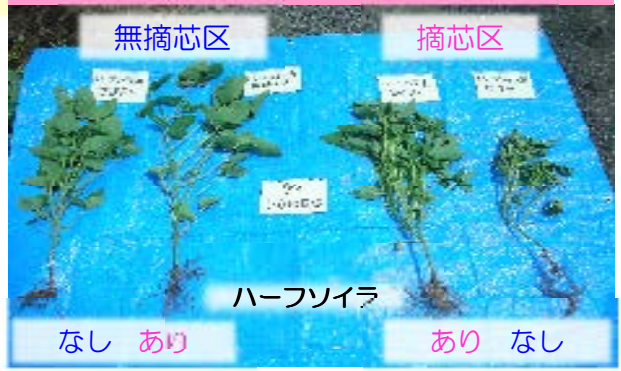
*** 頂芽優勢の仕組み ***

頂芽切除前

頂芽切除後



白根地区 (有)根岸様



頂芽優勢とは？
 一番先端にある頂芽が優先して成長し、側芽の成長を抑える現象。
 植物ホルモンが関与している。
 ※オーキシン・サイトカイニン

●大豆深層施肥技術について

今年、新潟大学プロジェクトで石灰窒素の深層施肥による作物の増収と環境保全型農業の両立のお手伝いを4月16日に新通農場、8月1日に村松農場で行ってきました。

大豆同時畝立播種時に石灰窒素の深層施肥を同時に行なうことが出来ます。石灰窒素の深層施肥を行なうことにより大豆の追肥の手間が省けます。また、深層施肥をすることにより上層根の根粒着生は阻害されず、節当たりの莢数が多くなり根粒も多くなる傾向が認められたそうです。

新潟クボタ大豆300Aプロジェクトでは、新潟大学 農学部 大山教授、高橋教授、長谷川准教授の御厚意により大豆の実証を行っていく予定です。新潟県大豆の安定多収を目指して頑張ります！

新通農場



村松農場

